

西村豁通先生の古稀を祝して

西村豁通先生には本年2月、めでたく古稀をお迎えになりました。まだ戦後間もない、1953年の春にわが経済学部にお迎えして以来今日まで、実に40年余に及ぶ長い歳月を、先生は研究と教育の面はいうにおよばず、ときには大学・学部の重責をになって運営の面からも同志社の発展のために数々のご貢献をなさいました。そして、その先生がいまなお、若者を凌ぐお健やかさでご活躍になっていることは、わたしたちにとって喜ばしいかぎりであります。

この記念論文集は、お祝いと感謝の気持ちをこめて編まれた先生への贈り物であります。ささやかではありますが、長年先生と苦楽をとともにされ、あるいは深い学恩に浴して研鑽をつんでこられた方々の労作がまとめられたこの論文集を、先生に捧げることができるのを心よりうれしく思います。

西村豁通先生のご経歴やご業績、それにお人柄については、巻末に愛弟子・能塚正義先生（大阪経済法科大学）が詳しく紹介されておりますが、ここでも述べられておりますように、先生は経済学部を迎えられた若き日すでに、おりから華々しくくりひろげられていた「社会政策論争」の一翼を担い、独自の学説を携えて恩師・先学の方々に伍して堂々の論陣を展開され、新進気鋭の学究として学界で重きをなしておられました。幸いにも私は学生時代に先生の講義に接する機会に恵まれましたが、難解な論争の要点を持説にもとづいて明快に整理され、それを情熱と気迫をこめて学生に語りかけられる先生の講義にすっかり魅せられ、学問の厳しさを思うと同時に憧憬をかきたてられたことを、つい昨日のことのようになつかしく思い出します。

また先生は、あの「大学紛争」の嵐がもっとも強く吹きすさんだ1969年に学部長をおつとめになり、大学の民主的改革の先頭に立たれました。半年にもわたった封鎖のなかで学園の機能がまったく麻痺したこの困難の時期、学部・大学の運営にははかり知れないご苦勞やご苦悩があったかと思われませんが、先生

は全精力を傾けて討議の場を幾度も組織され、ときには深更にも及ぶ激論をリードして、さまざまな意見を見事に改革案としておまとめになりました。このときの改革のいくつかは、いまでも学部の教学と運営の基礎として脈々として息づいているのであります。

ところで先生には、この3月末をもって定年に達せられます。豪放さと繊細さをおりませた豊かな個性で、ときには齒に衣を着せずに信念を主張され、存在感もひととき大きかった先生だけに、惜別の淋しさもまたひとしおであります。けれども、新しい世紀の到来を目前にして、あらためて大学のありかたが問われ、さまざまな改革が試みられているこの時にあって、先生が残された足跡はひとつの貴重な道しるべとして、その未来を担っていかねばならないわたしたち後進にとっていつまでも心のなかに刻まれることでありましょう。

ここにあらためて、先生のご貢献とご指導に感謝を捧げ、これからもますますご壮健でご活躍下さいますようお願いして、お祝いのごあいさつといたします。

1994年2月

経済学部長 島 一郎